

い 神輿を、兵児帯で繫ぎ止める

百七十年程前の昔、今の城南の地から長瀬部落が、天神津留に移転した時、一夜にして出水、水が若宮八幡宮の神輿が流水かかった時、時の長瀬庄屋は突差の場合とて、兵児帯をまつて神輿を繫ぎとめて、決死を防ぐことか出来た。それ以来、長瀬の庄屋の参着なくば、神輿のお立ちがなかつたと伝へられた。

明治の頃は若宮八幡の御旅所は一本松河原であつたが、昔は天神津留に御神幸のこともあつたまゝと思ふ。

七 殿様が、粟方庵にお出でになる

弘化、嘉永の頃、陸奥のよく出来た庵主が、粟方庵(長瀬にある庵、水庵とも呼ぶ)に居り、時の殿様(十二代高松公)の知造を接待、時々殿様が遊ばにお出でになつていた。長瀬の住民は道に蓮を敷いて、平伏してお迎えした由である。この話は天保、弘化生まれの人から、よく聞かされたものである。

此の庵主の墓は、長瀬から大内に通ずる墓地にあり、墓石は別格詠えの無縫塔で、「當庵中興法山禪修首座」嘉永六年段、殿河沼津石田村の庵と記されてある。

(6) 天神津留の闘牛

天神津留で闘牛があつたことを記憶する。明治三十五年の事と思われるが、今の家畜市場の所である。

高い田形の横敷が出来て、近郊からの見物人は、美しい蓮と持つて来て、それに坐つて見物する。印入りの着物と着けた大小の牛が、その大きさにより組合され、組の突き合いをして時間かたつと弱い方が逃げ出す仕組んである。善賢寺の前の鵜島と共に、随分面白かつた。(終)

読書

黒澤の民俗行事

会員 多田太 郎 吉 (七十七才)

一 盆行事

精霊棚 まちまちである、精霊流 十二時より夜明けまで

盆踊

但し昨年以青山青年団の主催で、婦人会を以て、青山地区一般民の役員で新法道に一般総供養踊を、青山小学校々屋で思ふは行われ

二 お日待

黒沢部落全部している。

三 庚申待

明治、日出光両部落がしている。

四 二十三夜待

していない。

五 お伊弉諾

伏水川、市野々がしている。

六 地藏祭

黒沢全部している。春秋二回。

七 お山講

(石鏡神社) 日出光部落がしている。

八 観音講

(伊豫山石寺) 小字山、日出光、桐、三部落共同で毎年春二三人参り、帰つてから三部落の方々が庵に参り、庵主さんと共にお終きあげ、終つて賑やかにお祭りを行います。

九 早吸日女神社講

(西の浦) 大部分している。

十 金毘羅米

まぢまち。

十一 山神祭

全部落している。山神祭には異つた祭り方もあり、万治、日出

光、桐ヶ原の三部落でするお祭り、小宮が方治の後藤泰雄さん方の近くにあつて、昔は旧七月二十八日の晩三部落の人々が参り、神踊やご神杖など奉納し、おとで後藤さん方の庭で盆踊をして大へん賑やかであつたが、最近では般若心経を三巻ほどあげ、終つてお神酒も俗にいうボタモチですませております。

又霜月の二十八日には三部落まわり座で、例えび今年方治が座組なら来年は桐ヶ原、さらい年は日出光ということ、一戸一人座組の座元家へ夕飯食べに行くと例になつており、これは私の生まれぬ以前から今まで続いており、珍らしいことですが、何がきっかけになつてするようになったのか知りませんが、どうも割りきれないような催しの方です。

そのほか、大師講は以前は頼母子講などあつて、極めて盛大で、東光庵も狭い位にお参りがあつたが、だんだん下火になり、二年前までは心ある人は二十日の晩には参り、ご詠歌やご和讃などあげて楽しんでたが、近ごろはめつたに参らないようになったが、又日頃の参るようにならうと思ひます。

また、各小部落（伏木川、市野々、小字山、桐ヶ原、日出光、方治、船形）いづれも小神様が祭つてあり（天神様、若宮様、ご蔭様、あたご様、稲荷さま）など、夏冬二回おまつり、但し冬は食ひまつり。

富屋神社例祭 四月二十五日 神楽、神踊、杖踊奉納
（十一月二十五日神楽だけ）

馬嶺神社例祭 一月十九日 六月十九日

各小部落毎に電話で聞き合はせ左へ大略右の通りと思ひます。又他のことあかり次第ご報告いたします。（以上）

調査

佐伯地方の民俗行事

佐伯市史編さん委員
佐伯史談会々員

岩 田 善 市

先般、佐伯地方の民俗行事について、佐伯市南海部郡全地域にあつて調査したので、その存続分布の状況をとりまとめて御報告したい。幸い佐伯史談会の会員が各地におつたので大半はその会員の、会員のない地区は落枝の先生方にお願ひしたところ、五十三通出して五十通の御回答という御協力を頂けて、ありがたく思つた。その結果をとりまとめて御報告申したい。

一、盆行事の精霊棚について

イ、精霊棚を各家に設けてまつる 十三か所（二六%）
ロ、まちまちである 八か所（一六%）
ハ、殆んど設けていない 二十九か所（五八%）

精霊棚は主として禅宗の檀信徒で、仏壇以外に座敷の軒下等に設ける施餓鬼棚のことで、仏の供養に飢餓に苦しむ亡者や餓鬼に飲食を施す法会を行つ場所である。供えものは、水、水の花（ナスビのサイの目切りに小魚、米杵を混ぜ合せたもの）その他季節のイモ、トウモロコシ、クリ、カキ等を供えて水まつりする。

このまつりは、檀信徒としての宗派にもよるが、イの回答十三か所の内、農村部五か所、海岸部四か所となつてゐる。ロの内、農村部四か所、海岸部四か所で海岸部の多いのは、信仰心の厚薄によるのか、習慣、人情性にあるのか、一つの問題